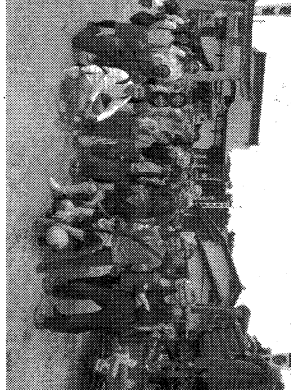




パ・とセクシエリアンに関する学びを実践につな
 いげまうという活動が、単なる「トイ問題」への取
 大学祭での活動
 トり組みでなく、学内の多様性について大学構成員が認識し、考えることを

促進することになった。この点が高評価され、受賞に至った。
 プロジェクトに参加する学生からは、今後は広報に力を入れ、学内外への認知度を高めるこ
 とを目標に活動をし、独自のトイエリアを設置するだけでなく、「みんながで学内のダイ
 バシニアについて考えていく契機にしたい」と抱負を語った。

広島大HJUSA留学生在が「吉浦かに祭り」見学
 広島大学短期交換留学生プログラム(HJUSA)留学生在53人(北
 米・ヨーロッパ・アジアの13カ国35大学出身)が広
 島大学に到着し、去る10月6日に開催された長門市吉浦八幡神社に
 伝わる「かに祭り」(秋大祭)を見学した。留学生在は9月25日に広
 島大に到着したばかり。養戸国際高等教育院の恒松准教授がHJ
 USAプログラム留学生在を長門市吉浦かに祭り見学に引率するのは今
 年で17回目となり、日本文化に興味を持つ
 留学生在は毎年楽しみにしている。



日本の地域に残る伝統的
 祭りの雰囲気体験

「道を作っていく様子を、留学生在は見入っていた。
 “そりやきげた”の掛け声とともに、「ちよささい」と呼ばれるた
 べりや神輿(みこし)、漁師の船をかついで、行き来する地域住民の
 一生懸命な姿に、留学生も感動した様子だった。
 地域住民らも世界各国の留学生在が日本の伝統的祭りを楽しみつ、日
 本文化について学びを暖かく見守っていた。HJUSA交換留学生在がバ
 スを降りると、毎年のように「はくろ」が待っていた。さらに地域住
 民が用意した鉢巻をつけ、日本の伝統的祭りを満喫する一日となった。
 交流する留学生
 地域の人々



愛教大美術実習棟の前に出現
 学生制作の鬼瓦ラジエイト

愛知教育大学の美術第一実習棟前の一角に鬼瓦のラジエイト
 が、10月20日に現れた。7月に互で有名な高浜市の鬼瓦職人鬼
 師一を講師に招いたワークショップで、同大の美
 術選修・専攻の学生33人が制作したもの。ラジ
 エイトは鬼師のもとで焼成され、10月19日
 に開催された高浜市の第18回鬼かまつりに出
 品陳列された。
 鬼かまつりでは、鬼みち街道などで高浜市内
 の小学生が作ったラジエイトや幼稚園・保育
 園児が制作したペットボトルのラジエイト
 など約200個が展示された。同大の学生が制
 作した作品は、森前公園エリアに陳列された。
 愛教大が鬼かまつりに参加するのは、昨年に
 鬼かまつり
 での展示



美術第一実習棟前
 での展示

今年も行き交う人々の目を惹きつけている。